

学部の歩み

応用生物科学85周年行事と歴史 ～農学のDNAとは?～

平成20年6月7日、「岐阜大学大学院応用生物科学研究科設置及び岐阜大学農学部創立85周年記念」式典・講演会・祝賀会を柳戸キャンパスで挙行し、招待者の同窓生・外国人研究者・教職員・学生が約400名集いました。小見山学部長は式典の式辞の中で、「われわれの応用生物科学部とその研究科は、紛れもなく農学に源流を返し、教育と研究の柱に『食料の安定供給』『環境の保全』『獣医学・公衆衛生』を掲げています。農学のDNAを応用生物科学の表現形に絞り、社会に広めていきます」とあいさつしました。

歴史から探る3つの遺伝子

さて、農学のDNAとは何か、歴史から遺伝子を探ってみましょう。

国の高等教育機関の創設拡張計画が大正8年度から実行に移され、岐阜県の高等農林学校設置の要望と一致し、第9高等農林学校を岐阜県内に設立することが、大正12年に文部省より岐阜県知事に通達されました。

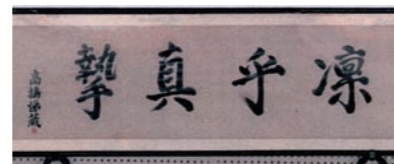
岐阜高等農林学校は那加村（現在の各務原市）に建設され、大正12年9月の関東大震災の影響を受けながらも、同年12月11日には北海道帝国大学農学部東海林力蔵教授（工芸作物学）を初代学校長として任命し、農学・林学・農芸化学の3学科で発足しました。翌年4月の授業開始に先立ち、4名の教授予定者が文部省から長期欧米留学に派遣され、教育研究面に常に新しい力を与える原動力となったようです。そして、大正13年4月15日の第1回入学式で東海林校長は、71名の新入生

に「教育の本義は人格を造ることである。凛として真摯な人を育てることこそ教育の究極の目的である」と述べました。これが第1番遺伝子（凛乎真摯）です。

第2番遺伝子（自化自育）は、大正13年12月に朝鮮総督府水原高等農林学校の草場栄喜教授が第2代校長に就任し、職員に対して「教育なるものは、常に『自ら自己を教育しつつある』先生でなければ、他を教育することは出来ぬ」と求めたことです。

その後、昭和15年に獣医学科、17年に農業土木学科、22年に農産製造学科を設置し、全国農専中で最も多い6学科を有するまで発展しました。そして、24年の新制国立大学設置にあたり、名古屋帝国大学への統合が問題化しましたが、岐阜県の教育・文化の発展に寄与することを目標として、岐阜師範学校および岐阜青年師範学校を母体とした学芸学部（現教育学部）と、岐阜農林専門学校を母体とした農学部（現応用生物科学部）の2学部で「岐阜

大学」が昭和24年5月31日に誕生しました。発足当時の「将来計画の展望」には「本学は新制大学の趣旨、即ち一面学術の研鑽に努力するとともに、他面、地元教育及び産業の振興に貢献すべき社会的使命に思いを致し、今後県下各方面との緊密なる連携を図り本学の育成発展に努力いたしたいと考えている」と記されており、これが第3番遺伝子（地域貢献）です。



凛乎真摯



式典での小見山応用生物科学部長・研究科長

100周年に向けて 農学のDNAを伝承

岐阜大学農学部は、高度経済成長期を経て、農学に対するさまざまな期待と要望を踏まえ、昭和41年に大学院農学研究科を設置し、さらに博士課程を他大学と連携して、平成2年に連合獣医学研究科および平成3年に連合農学研究科を設置するなど、農学の高度化・専門化に対応してきました。

その後、平成16年に「応用生物科学部」、平成20年に「応用生物科学研究科」へと改組する中で、生命という生きたものを掘り下げる学問の本質を忘れることなく、3つの遺伝子を柱に、生命・環境・倫理・技術という塩基のゲノムに組み込んで、温かみのある教育と農学を尊ぶ研究を進めています。

以上、応用生物科学に組み込まれた農学のDNAを確認できたでしょうか？ 岐阜大学応用生物科学部は、世界トップレベル国際研究拠点のサテライトとして、「物質・細胞統合システム」にかかわるプログラムなど最先端の研究によって世界に存在感を示しつつ、教育とは何かを常に考える姿勢を先輩から後輩に伝承し、100周年に向けて発展させていきます。今後の応用生物科学部に期待してください。

応用生物科学部のホームページもぜひご覧ください。

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~abios/>

《応用生物科学部憲章》

応用生物科学は、生物と生命に関する学理と技術を究明し、得られる成果を生物産業に応用することを目指す総合科学である。応用生物科学部は、その歴史と特性を活かし、応用生物科学の教育と研究を通して人類の幸福、とりわけ持続的生存と生活環境の向上に貢献することを理念とする。

教育の目標

1. 凛乎真摯と自化自育の精神を育み、科学的な思考能力と応用生物科学に関する高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する。

研究の目標

2. 独創的かつ先進的な研究活動により生物とその生命に関する真理を探求し、生物生産力の向上、生物資源の保全と活用、環境の修復と維持、新しい生物生産技術の開発、並びに生命科学の発展を図る。

社会貢献の目標

3. 地域における応用生物科学の学術・研究拠点として、生物産業の発展、自然及び生活環境の保全、並びに住民の生活の向上に貢献する。
4. 教育と研究の実践を通じ諸外国、とりわけアジア諸国との交流を盛んに行い国際的に貢献する。

学部運営の目標

5. 学問・研究の自由を尊重し、管理運営に教員それぞれの立場で積極的に参画する。
6. 教育、研究、社会貢献、学部運営について定期的に自己点検評価を行うとともに、外部の意見や評価にも真摯に耳を傾け、社会に開かれた学部をつくる。
7. 組織の簡素化を図り、効率の良い運営と活性化を進める。



岐阜高等農林学校